

宿驛

おほくより大井へ三里、尾張へ出る道有百五十六文。

大井より中津迄二里半、七八八文、みたけより八里、なすび川、せんだばし、八まんのみや有、中津川よりおち合へ一里、四十四文、此間下れば左のむかふ苗木といふ城有、中つより一里、おち合よりまごめへ一里、四十四文、むかし木曾殿のさむらい落合五郎かねゆき居城也、此所ひなわの名所なり、あてひなわと云、水中にてもさへすと云、十石橋坂有、是より信州安曇郡木曾の内也、

〔延喜式二十〕諸國驛傳馬○中

美濃國驛馬不破三疋、大野方縣各務各六疋、可見八疋、土傳馬不破方縣各務、可見武義加茂各四疋、野郡三疋、土岐郡五疋、惠那郡十四疋、大

〔延喜式二十二〕凡美濃國坂本土岐大井三驛信濃國阿智驛子課役并免、

〔延喜式二十六〕凡諸國驛馬飼秣者○中其嶮路使繁疋別十七束、使稀十束、平路使繁八束、使稀六束、但美濃國坂本信濃國阿智兩驛並疋別冊五束、

〔延喜式五十〕凡美濃國互差掾若目一人令檢校土岐惠奈兩郡雜事并驛家遞送事、

〔續日本紀三十四〕寶龜七年十月壬辰、美濃國菅田驛與飛驒國大野郡伴有驛相去七十四里、巖谷險深、行程殊遠、其中間置一驛、名曰下留、

〔類聚三代格七〕太政官符

應擇諸郡司中恪勤者令興治惠奈郡事

右得美濃國解傳惠奈郡坂本驛與信濃國阿智驛相去七十四里、雲山疊重、路遠坂高、戴星早發、犯夜遲到、一驛之程、猶倍數驛、驛子負荷、常困遞送、寒節之中、道死者衆、朝廷悲之、殊降恩貸、永免伴驛子租調、又去承和十一年、舉郡給三年之復、頻雖施無限之恩、徒費公家、曾無所息、前任良宰、雖展治方、猶難興復、況後任愚吏、更施何術、今檢彼郡課丁、總二百九十六人也、就中二百十五人爲驛子、八十一人輸